

平成 2 7 年度連合農学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準 4 学生の受入 4－1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4－2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	3 ポリシーの整合性について代議員会等で検証し、それに対応すべく、講義科目や入試方法の見直し・改善を行った。さらに、3 ポリシーの日本語版及び英語版を連合大学院研究科棟及び静岡大学の掲示板に掲示し、学生及び教員で共有するようにした。また、日本語及び英語でホームページに公開し、広報、研究科概要、募集要項に掲載した。	「研究科概要」（資料 1）	
基準 5 教育内容及び方法 5－2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5－5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	平成 2 7 年度入学者選抜から、推薦入試では、口頭試問を重視したこと、外国人特別入試では、コンソーシアム加盟 1 5 大学の志願者は受験の機会を増やすなど改善を行った。「一般入試・推薦入試・外国人特別入試」としてまとめており、平成 2 7 年度入学者 2 2 名（4 月入学 1 5 名、1 0 月入学 7 名）のうち、外国人特別入試による随時入試を行い入学したのは 7 名である。	「平成 2 8 年度岐阜大学大学院連合農学研究科学生募集要項」（資料 2）	
基準 6 学習成果 6－1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6－2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	中間発表を半年毎に実施することにより研究の進捗状況を確認するとともに、修了時には公開論文発表会を行い、学習（研究）成果の評価を行った。また、学生間の学習成果の交流となり、学生自身が能力を自己点検し、学習成果を確認できた。また、平成 2 6 年度修了生 1 1 名に対し、修了生アンケートを実施し、その結果を平成 2 7 年 4 月の代議員会にて、分析・評価した結果、本研究科の教育方法・指導体制等現状に満足していることが確認できた。	「平成 2 6 年度修了生アンケート集計表」（資料 3）	
基準 8 教育の内部質保証システム 8－1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8－2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	修了生が、南部アジア地域の協定大学に教員として戻り、さらに研究した内容を、本研究科が主催する国際シンポジウム（実施日：平成 2 7 年 8 月 2 6 日（水））の全体会で研究成果を発表するとともに、さらに 3 つの分科会に分かれてより深い研究討論を行い、今後の研究の方向性を確認することができた。また平成 2 8 年 3 月修了した 2 名の学生が研究成果を Reviews in Agricultural Science に投稿することができ、学習成果の把握ができた。	「Reviews in Agricultural Science」（資料 4）	

※平成 2 7 年度自己点検評価報告から抜粋（一部修正）